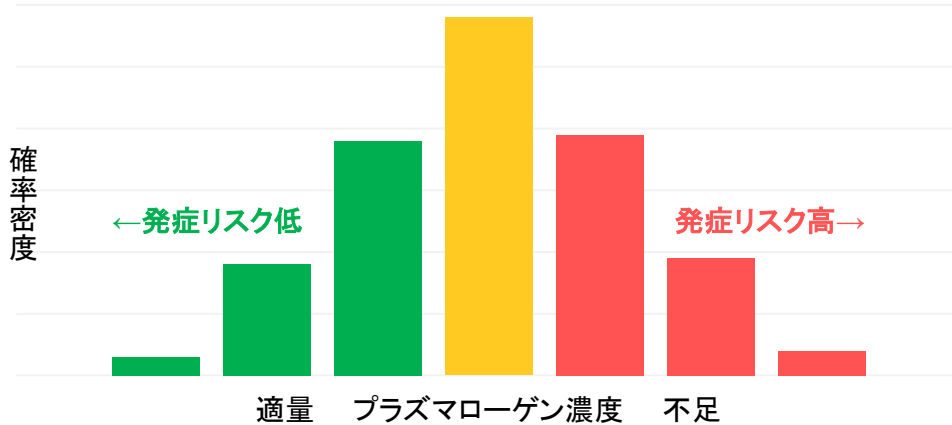


アルツハイマー型認知症リスク検査 Prodrome-AD

< Prodrome-AD (プロドロームエーディー)とは? >

アルツハイマー型認知症のリスクを調べる血液検査です。認知機能の低下と関連性が確認されている「プラズマローゲン」の血中濃度を測定し、アルツハイマー型認知症のリスクを判別しています。採血のみの簡単な検査で、早期発見へのきっかけとして利用頂くことが可能です。

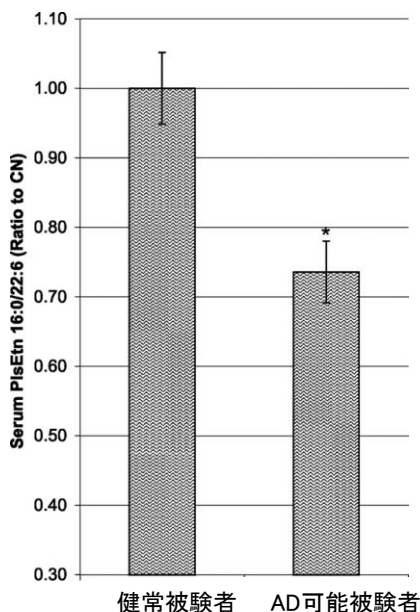
血中プラズマローゲン毎(標準偏差)の認知症発症分布イメージ図



< Prodrome-ADの特徴>

検査では認知機能低下と関連性が認められたプラズマローゲンの血中濃度を測定しています。プラズマローゲンの血中濃度からアルツハイマー型認知症の発症リスク総合的に評価し、高、中、低の三段階でリスクを評価します。

日本人被験者によるAD可能性被験者と健常被験者におけるプラズマローゲン比較(N=80名/群)



研究/調査内容

- 独立した6つの集団群でプラズマローゲンを測定
 - 認知正常被験者群
 - ADの可能性があると診断された被験者群
 - 神経系疾患あるいは癌と診断されない健康な被験者群
 - 検死時点でADの可能性があると診断された被験者群
 - Sun Health Research Instituteの脳バンクプログラムで収集されたADリスクゼロ被験者群とAD被験者群
 - 日本人由来でAD可能性の高い80名の被験者群と認知障害のない健常被験者群80名
- 臨床的に認知症:400名の被験者と認知症以外:350名以上の被験者

結果考察

地理的な場所、食生活または民族性に関わらずAD患者においてプラズマローゲンが有意に減少していることが確認された

Dayan B Goodenowe, [2007] Peripheral ethanolamine plasmalogen deficiency:a logical causative factor in Alzheimer's disease and dementia

Prodrome-ADをスクリーニングに用いることで
アルツハイマー型認知症の早期発見・早期治療の可能性を高めることが可能です

<報告レポートイメージ>

プラズマローゲンの血中濃度の解析を行い、A3見開きの紙面レポートにて報告致します。結果は高リスク、中リスク、低リスクの3段階で判定しております。報告書には認知症を予防するためのヒントや測定物についての解説を記載しております。

Prodrôme-AD アルツハイマー型認知症リスク検査報告書

カルテID: 123456789 氏名: サンプル タロウ
受診日: 2021/4/1 性別: 男性 年齢: 60

Prodrôme-AD 判定結果

Prodrôme-ADの結果、プラズマローゲンの値は大幅に不足しており、**高リスク**と判定されました。

プラズマローゲンの量: 満量 (右) ← スコア9 → 不足 (左)

リスクレベル: 低リスク ← 中リスク → 高リスク

総合評価コメント

プラズマローゲンは認知機能の維持を促すために必要不可欠な成分です。今回の検査結果でプラズマローゲンの値が低下しており、アルツハイマー型認知症のリスクが非常に高い状態であると判定されました。必要に応じて専門医の受診や検査結果の受取をおすすめします。

検査受診後について

- 低リスク** (スコア: 100-90): リスク因子(習慣)を減らす、健康的な生活習慣を心がけることが重要です。年1-2年に1回検査。
- 中リスク** (スコア: 80-70): 健康習慣を身につけたリスク因子(習慣)を減らす方法、生活習慣を改善し健康的な生活習慣を心がけてください。
- 高リスク** (スコア: 15-1): 医療機関に相談の上、専門医の受診をおすすめします。必要に応じて専門医の受診や検査結果の受取をおすすめします。

アルツハイマー型認知症のリスク要因

- アルコール・喫煙**: 過度の飲酒や喫煙は認知機能の低下を招く可能性があります。
- ストレス・社会的孤立**: 過度のストレスや社会的孤立は認知機能の低下を招く可能性があります。
- 運動不足・肥満**: 運動不足や肥満は認知機能の低下を招く可能性があります。
- 糖尿病**: 糖尿病は認知機能の低下を招く可能性があります。

プラズマローゲンの量を改善するために...

- 食生活の改善**: 健康的な食生活を心がけることが重要です。
- 運動習慣**: 定期的な運動を行うことが重要です。
- サプリメント**: 必要に応じて専門医の指導のもとでサプリメントを利用することがあります。

Prodrôme-ADについて

本検査では最新のプラズマローゲン測定法を用いて、プラズマローゲンの量を測定します。プラズマローゲンは、脳の機能を維持するために必要な成分です。プラズマローゲンが十分に存在している状態は認知機能低下のリスクは低くなります。プラズマローゲンの減少や不足は認知機能低下のリスクを高めます。

検査方法

プラズマローゲンの量が非常に少ない場合は低リスク、やや少ない場合は中リスク、十分に存在する場合は高リスクと判定します。高リスクの場合は中リスクと比べて、中リスクの場合は低リスクと比べて認知症の発症リスクが高まることが報告されています。

Prodrôme-ADと認知症について

日本においてアルツハイマー型認知症の発症率の高さは、世界的に最も高い水準に達しています。アルツハイマー型認知症の発症率の高さは、脳にプラズマローゲンの量が減少していることが関係していると考えられています。プラズマローゲンの量を測定することで、認知症の発症リスクを事前に把握することが可能です。

検査項目名	Prodrôme-AD(プロドロームピーエーディー)
検体量	血清 0.5 mL
容器	血清分離剤入採血管
保存(安定性)	冷蔵
報告期間	検体受領から21日
測定・解析機関	PRODROME SCIENCES Inc.
検査方法	質量分析法
備考	Prodrôme-ADはアルツハイマー型認知症の発症リスクを判定する保険未収載の検査です。Prodrôme-ADの結果のみでアルツハイマー型認知症を判定する検査ではありません。他検査の結果と併せて今後の検査・治療方針の検討にお役立て頂くことをお勧めいたします。本検査はPRODROME SCIENCES Inc.が保持する特許に基づき、(株)プリメディカが日本国内における独占契約により販売を行っています。

参考文献:

- Alkyl-Acylglycerols and the Important Clinical Ramifications of Raising Plasmalogens in Dementia and Alzheimer's Disease Relation of Serum Plasmalogens and APOE Genotype to Cognition and Dementia in Older Persons in a Cross-Sectional Study
- Relation of Serum Plasmalogens and APOE Genotype to Cognition and Dementia in Older Persons in a Cross-Sectional Study



株式会社プリメディカ
〒105-0011 東京都港区芝公園2-3-3 寺田ビル5F
TEL: 03-5776-1105 FAX: 03-5776-1106 <https://www.premedica.co.jp>